

聞きながら検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

糸魚川市は1万円。上越市だったか1万2,000円でしたかね、引き上げしています。またさらなる引き上げの要望の話もあります。

資格取得のほうの補助金は、県の上限を使っているようなんですけども、やはり県や、あるいは隣と連携しながら金額はできるだけ同じ、あるいはそれ以上にやらないと難しいんじゃないかなというふうに思いますので、その辺も検討する中で、この有害鳥獣の対策をやっていただきたいなと思いますし、本当にイノシシにおいては、火打山でも見られるというふうになって、環境破壊も懸念されますので、しっかりした対策をよろしく願いして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を13時といたします。

〈午後0時07分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。1回目の質問をさせていただきます。

1、義務教育修了時の学力について。

11月2日、NHKのクローズアップ現代+で「平仮名も書けない若者たち見過ごされてきた学びの貧困」という番組がありました。

内容は、20歳になっても平仮名も書けない、掛け算、割り算もできないという青年の話です。特異な事情で小学校2年までしか行っていません。不登校で当初は先生や行政の担当者が来ましたが、だんだんと来なくなりました。

NHKの調査で義務教育を十分に受けられなかった若者は全国でおよそ600人、「読み書きが困難」が78人、「計算ができない」が69人、「対人関係が苦手」が208人でした。

当市でも30日以上の不登校数が報告されています。

- (1) 当市の不登校生徒の学力はどのようなのでしょうか。
- (2) 不登校の生徒の学力対応はどのように考えているのでしょうか。
- (3) 学力不十分な生徒に対し、学校の教員だけに任せていていいのでしょうか。教育補助員が個別に教育するなどの対策が必要だと思いますがいかがでしょうか。

2、西回り塩の道について。

ことしの5月に「西廻り塩の道を歩く会」に参加させていただきました。19年も続いているとこのことで、案内看板や山道の整備も今井・小滝地区が中心になり、組織をつくって行っています。看板も19年が経過し、傷んできているのが実情です。

塩の道というと、大野から根知を通る道が国の文化財に指定されているとのことですが、東回りは商売の道であり、西回りは公道であったとのこと。この西回りの塩の道も立派な文化財と考えます。

市としても看板などの補修に援助をすべきと考えますが、いかがでしょうか。

3、小滝と橋立のヒスイ峡を結ぶ道について。

ヒスイが国石として選定されました。先日にはテレビのクイズ番組でも日本の国石は何かとの問いがあり、全国的にも知られてきていると思われ。これを機会に小滝と青海川橋立ヒスイ峡を結ぶ遊歩道を整備して観光にとの声があります。以前は橋立と小滝を結ぶ道があったとも聞きます。

黒姫山のマイコミ平も、自然の好きな方のツアーが好評です。このヒスイ峡を結ぶルートも観光につながるのではないかと思います。

調査からでも検討をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

4、台風21号による青海川水害について。

糸魚川市において台風21号による降雨の水害が多く発生しました。その中で青海川上流での被害についてお伺いいたします。

- (1) 被害の程度はどうでしょうか。
- (2) 現在までの復旧状況はどうか。
- (3) 市としてこの状況をどのように考えられているのでしょうか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願ひします。

2番目につきましては、青海海岸と今井ジオサイトを通るコースでありまして、不動滝、ヒスイ峡、高浪の池なども周辺に点在することから、看板等の補修については、塩の道を歩く会に協力を

し、対応してまいりたいと考えております。

3番目につきましては、小滝川、青海川、橋立ヒスイ峡とも保存整備計画等により整備を進め、国石ヒスイの産地として魅力アップを図っているところであり、ヒスイ峡を結ぶ遊歩道については、国・県などの関係機関のご意見も伺いながら調査研究をしてまいりたいと考えております。

4番目の1点目につきましては、大量の土砂が堆積したことが原因で青海川の脇に整備されていた林道橋立線の一部が埋没いたしました。

2点目につきましては、河川内において堆積土砂の排除や瀬替えを行い、林道橋立線の仮復旧を行ったところがございます。また、河川の土砂の搬出などを行い、河道の確保に努めております。

3点目につきましては、早期に災害復旧を行うことが必要と考えており、市といたしましても河川管理者である新潟県とともに、早期に工事を推進できるよう国に要望していきたいと思っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

山本議員の1番目の質問にお答えいたします。

1点目につきましては、不登校により授業を受けることができない児童生徒の中には、当該学年に必要な学力が身につけていない子供がいると考えられます。

2点目につきましては、学力の定着に向け、指導主事や学習支援員等の学校への派遣、市適応指導教室や家庭訪問時の学習支援などを行っております。

3点目につきましては、教職員と連携して学習支援員等が個別に支援を行っており、今後も一層の体制整備を図ってまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

2回目の質問をさせていただきます。

クローズアップ現代+、この放送を見られた方おいででしょうか。正直な話、私この放送を見て愕然としました。日本で読み書きができない人はいないと言われた、放送の中でも言われてましたけど、本当に愕然といたしました。

放送の内容は、母子家庭で兄弟の、6歳上の兄さんが暴力、それに耐えきれなくなって小学校2年から学校に行かなくなり、そのまま平仮名も書けないという青年の話でした。宅配の何か仕事もしたんですけど、宅配、留守だという字も書けません。そんな状況で、やはりやめざるを得ない状況、そんな話でした。将来に希望が持てないという話であります。

また、小学校に行けなかった21歳の女性の話では、人との会話もやはり消極的になり、無学を

人に見せたくないということで同世代の友達もいない、そんな話でした。

先ほど挙げた数字なんですけど、全国生活困窮者支援窓口にNHKが調査しております。その回答率がおよそ41%、その中で義務教育を受けられなかった方が600人、読み書きが不十分が78人、計算不十分が69人という話です。もしこれが100%であれば、またほかのいろんなところからすれば、もっとこれの何倍かになるんじゃないかというふうに思っています。

この放送の事例はごくまれなことと思いたいのですが、国勢調査で小学校を卒業しない人がおよそ全国で12万人、40人以下が2万人という内容でした。

私事ですけど40年ほど前、職場で、やはり戦後の方だと思うんですけど、自動車の免許を取るんですけど、実技は合格するんですね。でも筆記試験がなかなか合格できない。やはり内容が理解できないんだと思うんですね。そんなことを我々、昼休みだったか、そのように本当に勉強を教えてやり、何とか免許を取ることができました。

また、5年ほど前ですけど、糸魚川自動車学校のバスの送迎を応援していたことがあります。その中でもやはり五、六回筆記試験を受けても受からない、その方は本当に暗い顔をして、最低限の免許すら取れない状況が私の身の回りでも感じることができました。

国勢調査の内容で驚くことは、本当に40歳以下でさえも2万人がいることだと思います。その人の教育が不十分だったように思えるのです。

憲法では教育を受ける権利を保障されております。現状は教育委員会や学校は登校を促すことに義務があり、つついというやむやになるケースや夜逃げなどでいなくなったケースなどでこんな状況が発生しているのかもしれない。

では、糸魚川ではこのようなケースはあるのでしょうか、あったのでしょうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

議員からご紹介をいただきまして、私もネットではありますが、クローズアップ現代のこの情報について承知をしているところです。19歳の青年、それから21歳の女性の話については、非常に驚いたところであります。

当市におきましては、そこでありましたような読み書きが困難、計算ができないという実態はないというふうに把握をしておりますが、中にありました対人関係が苦手という例はあるかと思いません。先月、まがたまで、はったつ応援事業講演会というのが行われて、品川先生という講師の方がおいででしたが、その講演会でも、最低でも小学校4年生レベルの学力が身につけていないと社会生活で困難を覚えると。学力は、社会で自立していくためには欠くことのできないものであると思いますので、ある程度の学力をしっかりと身につけておくということは自立した社会人を育成する上で必要不可欠なことというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。実際に今、糸魚川でも30人以上の不登校の生徒が報告されていますけど、不登校の方と一般の方との成績の比較なんかはされたことがあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

先ほどの教育長の答弁にありましたように、その間、授業を受けていないということでもありますので、中には当該学年に必要な学力が身につかないという例はあるかと思えます。個々の例につきましても、ここでは差し控えさせていただきますが、そういった例は考えられると思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私も9月、10月、11月だと思うんですけど、教育委員会に傍聴させていただきました。そのときに糸魚川市の、いわゆる教育レベルの話が出てくるんですけど、実は、最低限の部分が全然出てこないんですね。やはり読み書きそろばん、やはりそれがなければ社会人になったときに大変なことになる。やはり社会に出てからの、いわゆる対応がだめでということが考えられると思えます。教育委員会でも平均的な学力がどうだだけじゃなく、やはり最も下の部分がどれぐらいのレベルなのかということも報告して、対処していかなくちゃいけないというふうに考えるんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

クローズアップ現代+の番組でも平方メートルやミリリットルというようなものが、意味がわからなかったりとか、30%オフ、2割引きというものの計算ができないとか、漢字が読めないために薬の飲み方もわからないというような例も紹介をされておりました。

そういったことでは、社会生活には大きく支障があると思えます。子供たちにはしっかりとした学力を身につけてもらいたいと思っておりますし、私たちとしては、NRTですとか全国学力学習状況調査の結果をもって、それぞれの学年の実態の把握ということはしておるつもりでございます。学校におきましてもNRTの調査は、各学年で毎年行われてますので、そして個々の学年では、その学力の実態も把握しておるといところであります。

教育委員会において、その実態について説明するかということについては、また検討させていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川でもいじめだとか不登校に対して、生徒指導支援員とか教育相談センター、スクールソーシャルワーカーなどを配置しています。その活動内容をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

生徒指導支援員は、現在2名おります。お二人とも元教員でございます。分担をしまして各小中学校を回っていただき、教職員にいじめや不登校についての芽を早く摘むために、授業ですとかそういう点においてもアドバイスをさせていただいたり、保護者の対応についてのアドバイスもさせていただいております。

それから教育相談センターの相談員につきましては、各学校を回りまして、子供たちの相談に乗ったり、また、教職員からの相談にも乗りますし、保護者からの相談にも乗っているところであります。

教育補助員につきましては、特別支援学級におります特別支援のお子さんの支援を行っているというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。特別支援教育の充実として、当市では小学校で28人、中学校10名、特別支援学校2名、看護師3名ということだと思んですけど、それぞれの教育補助員の職務、もっとちょっと詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

特別支援学級で学習をする際に、1人の先生が複数の子供たちを指導することになります。ですので、その際には教育補助員がそこにつきまして、個別な指導に当たったりしております。

また、ある生徒が該当の学級、普通通常学級のほうと一緒に学習をするときもございます。例えば音楽ですとか体育とかというときに、その生徒が特別支援学級から離れて同じクラスの子供たちと一緒に学習するときもあります。そういったときに介助員と一緒についていくということがございます。

看護師につきましては、特別支援学校で介護が必要なお子さんがおりますので、その介護に当た

っているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。テレビの内容からも、どちらかというとも国も含めて、この義務教育は学校なりそういう施設に来て教育するというものの考え方だというふうに理解しております。でも実際には来れない方がやはりこういう状況になる。そういうことだと思うんですね。

実は、私、ことしのゴールデンウィークに田沢小学校、地元に行ってきました。そのときちょうどゴールデンウィークですので、子供たちが音楽だとかスポーツだとか、そんなクラブ活動を結構やってました。

ある教室に行きましたら、1人の生徒に1人の教師が個別に指導してました。すごいな、正直な話、思いました。先生がかなり努力してやってくれてるんだなあ、本当に感心しました。

でも教師だけに本当に任せていいんでしょうか。今、本当に教師の多忙が言われてます。そこらあたりも含めて、やはりちょっと違った形のを支援していかないとこのようなことが起きるのではないかというふうに考えます。放送でも教育を受けられない子供に対して、教育者がその自宅に出向いてでも教育を行うことも必要ではないかと指摘していました。現状のその教員に負担を負わせることが、余りにも私も酷なような気がいたします。

先日の教育委員会でも委員から生徒指導員や補助員の増員をとの意見がありました。教員以外の支援員をふやすことを考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

ことし市長と学校の校長との懇談会というのも行いました。その際に各校の校長から非常に教育補助員を配置してもらって助かっているという声が多く寄せられました。ということは、その支援はやっぱり引き続きお願いをしたいということなんだなというふうに、私は参加をされていて理解したところです。学校も非常におっしゃったように多忙化でということが言われております。学校の職員のためにも、そして、子供たち一人一人のためにもマンパワーは必要かと思えます。財政的なものもあると思いますが、何とか教育補助員ですとか生徒指導支援員というようなものを増員もできればというふうに期待をしておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

実は、ある校長とお話したときに、この教育補助員ですか、これも実はかなり難しい部分があると。逆に言うと教師が教材をそろえたり打ち合わせをやったり、むしろそちらのほうが時間がかか

って、むしろ自分が教えるほうが早いということもちょっと耳に挟みました。とはいってもやはり教師の、いわゆる負担というのは大きいんだろうと思います。だから、この補助員も単なる時間的にこう、来てやるんじゃないくて、やはりそういうことも試行錯誤しながら、やはりともにという形をつくっていかなければ本当の教育にならないのではないかというふうに考えます。その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおりかと思います。教育補助員の中には教員の免許を持っておる者もおりますし、教員免許を持っていない者もおります。学校現場を経験した者もおりますし、経験したことの無い者もおります。教育補助員の資質の向上ということも必要かと思しますので、それについても検討したいと思っております。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

やはり教育というのは、心と心の部分がかなり大きいと思いますね。単なる先生と生徒で本当に信頼関係が築けるかというところではなく、やはりこの先生ならと思えば本当に勉学もいろんな部分で励む。でもやはり人間的に合わなければ、逆にマイナスに出る可能性も十分あるんだと思います。この点も人と人ですから、ですけど必ず何かいろんな本当に試行錯誤しながら、その生徒に合ったそんな指導をしていただければというふうに思います。先ほども言いましたけど、学校に来て勉強する、から一步踏み出して、やはり家庭にまで、親、父兄と言ったらだめなんか、保護者と話し合って勉学、将来で少なからず小学校の4年、5年の学力、読み書きが、そろばんができなければ社会に出て落後者になるんだよ。そこらから含めてぜひとも糸魚川からはこのような、いわゆる大人になっても落後者になるようなことのないような教育にさせていただければというふうに思っています。

またテレビの中で、不登校の対処は学校教育委員会が行っていますけど、不登校になる原因の中にやはり経済的な負担だとかいろんなことがあるというふうに言われていました。教育委員会と福祉事務所との関係は、どんな関係になってる、お互いに連絡を取り合っているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋文明君登壇〕

○福祉事務所長（水嶋文明君）

生活保護の観点から申し上げますと、私どもに申請があって、その世帯に、いわゆるお子様がいらっしゃる場合には、教育委員会のほうとこういった世帯がありますよということで連携をさせていただいてるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

虐待ですとかというような案件が出た場合は、こども課とこども教育課、また場合によっては福祉事務所等とも情報交換をして、対応しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

今後とも、ぜひとも連携をとりながらやっていっていただきたいというふうに思います。

テレビの中では、成人になった教育貧困者が夜間中学、これ全国でまだわずかしかないんですね。例えばじゃあ新潟県でやったところで糸魚川に夜間中学ができるというふうには考えられません。やはりそういう面でも義務教育が終了するまでの間に最低でも小学校5・6年、読み書きそろばん、先ほど言いましたように例えば就職するときの自分の住所、名前も書ける。また自動車の免許もちゃんと取れる。やはりそれだけの学力は、我々、糸魚川市としてやはり責任を持ってやるということが重要でないかと思います。ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。

また、別の観点からちょっとお伺ひしたいと思います。

私も子供のころ、やはりいじめまでは行きませんが、どうしても学力の下というか方を、さげすむと言ったらいいか、ちょっと差別用語かもしれませんけど、そんな感じがあったような気がいたします。実際にこういう学力の部分で、それがもとでいじめなんていうことはあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

いじめの原因ということかと思いますが、さまざまなことが挙げられます。勉強ができないからいじめられたとか、運動ができないからいじめられたとかという事案も聞いてはおります。子供たちにとってみると自己肯定感が傷つけられたということについても非常に大きな心理的なストレスになりますので、いじめというふうに認識をしていると思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

やはりこういうところもいじめなり、そういうものにつながる可能性は十分あるんじゃないかと思いますので、やはり学力の弱い方を個人的に、そんな感じでやっぱり指導することも重要なポイ

ントのような気がいたします。

教育の貧困は、社会的不適格で生活保護につながり、また将来的には社会でも、もしそうなったときには社会が高負担という形でつながらざるを得ないような感じがいたします。そのためにもこの糸魚川からは教育困難者を絶対につくらないという意気込みで教育委員会、市も含めて行っていただきたいというふうに要望したいと思います。よろしく願いいたします。

次に、大きな2番、西回りの塩の道、私も実は上刈の生まれでして、須沢に来てあれなんですけど、先日初めて西回りの道を歩かせていただきました。やはり何か見ててジオパークの部分が感じられました。本当に須沢の海岸から小滝、平岩まで、やはりかなりのいい道ではないかというふうに思ってます。今井だとかその方が中心になって会をつくり、年に何度か行事、みずからがやるというところに私はかなりの大きな意味があるんだと思うんです。

昨今どちらかというみんな行政にあれをやれ、これをやれという中で、やはり19年もの間、自分たちだけでやってきた、すばらしいことだと思ってます。高齢化も進み、いろんな部分で大変なことも聞いております。ぜひともこここの部分に少しでも市としての光を当てていただければ幸いです。よろしく願いしたいと思います。

これでちょっとご意見聞かせていただければというふうに思います。改めてお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

西回り塩の道の会の皆様の活動につきましては、議員おっしゃったとおり歩くイベントですとか、秋はまた講演会などの交流会を開催されておまして、当課からも秋のほうの会には参加をさせていただいております。

また、平成14年には書籍も発行されるということも承知をしておまして、自主的な活動を積極的に取り組んでおられることは、十分承知をしているところでありますので、今後ともその活動についてできることがあれば応援してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。ぜひとも市を挙げて応援していただければというふうに思います。では、大きな3番、小滝と橋立のヒスイ峡を結ぶ道について。

私、ことし11月にマイコミ平に、実際に千里洞とかああいうところ初めて行かせていただきました。当日は、ちょっと雨の後で長靴を履いて、本当に行くとかかなりの山を登ったりおったり、まさに本当にジオパークだな。千里洞の中を見ると大きな声を出すと声が返ってくるとか、やはり本当にジオパークを感じました。実際にマイコミ平もツアーでは、もうほとんど満員になるというようなことも聞いております。小滝と橋立の道も自然を満喫するには、かなりのいい場所だと思います。舗装の道路をつくれというつもりは全然ありません。案内人がマイコミ平と同様に20名ほどに1人ついて案内してます。私そんな感じで十分だと思う。むしろ自然は壊されなくていいんだなと

いうふうに思っております。

また、逆にこれは国石になったヒスイ。2つのヒスイ峡を結ぶとしては観光の目玉に、目玉と言ってもそれほど少ない人数だと思んですけど、なるのではないかというふうに考えております。

また、マイコミ平の場合には、高畑で車をとめて、また同じところに戻ってくる。するとマイカーで来ますよね。でもこれの場合には、多分1日で往復というのはかなり難しいんじゃない。そうするとタクシーを使って小滝まで行く。それでおりにきて、それこそ青海川からまたタクシーを呼ぶなり何かを使って帰る。市の収入にもつながるようなケース、そういう面でぜひとも調査、検討からでも結構ですのでやっていっていただければというふうに思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、4番目、青海川の上流、まず私も11月の幾日か青海支所の方と現場を見てきました。青海川のほうは下降ぎみの、宮花町でちょっと堤防が崩れた、その程度かというふうに思っておりましたが、実際に行ってみて驚きました。6メートルほどの川底から、それが埋まって林道も、1メートルまでは行きませんが五、六十センチ、もう完全に林道が埋まっている状況です。カネヨ運輸さんの重機が河原に出してあったものがもう流されて、また上流ではデンカの水力発電が、もう工事がとまった。逆に林道が通っていけない、そんな状況でありました。

話によりますと、土砂をと言ひながら、先ほど大滝議員のあれでもありましたが、土砂のやり場所がなくて困っているよと。川に堆積した土砂をと言ひながら、デンカのほうで昔のグラウンドですね、そこに何か仮置きしてもいいよと言ひながら、もうそれだけの土地ではだめで、20倍ぐらいの土地が要るんだというような話もしておりました。ぜひともやはり青海川ばかりじゃなくて、能生川、早川、みんな川底が上がってきて、水害につながっているんだと思ひます。市として本気になってその土砂のやり場所の確保を考えていただきたいと思ひます。

そんな状況の中、青海川の上流には、実は人家がないためにどうしても復旧がおくれたというふうにも聞いてます。そんな中、市長を初め、県に出向いて復旧のほうにご尽力をいただいたということ、本当にありがとうございます。

デンカ、私もデンカにおりました。デンカは大正年代に石灰石と北アルプスを抱えた青海・糸魚川、向こうは海川から早川、姫川、青海川を初め水力発電、多分、工場単位では全国で2番目というふうに聞いてます、水力発電量が。それがために石油価格が最盛期、でもこの糸魚川・青海から逃げずにカーバイト産業を続けて、クロロブレンなりにつなげ、今でもこの糸魚川の主力産業として生き延びているんだというふうに思ひます。

我々議員のほうからも企業誘致というような話が数多くあります。でも私は、企業誘致は今までどおりやはり頑張らなきゃいけない、とはいってもなかなか難しい。そんな中で、やはりデンカでありますとか、例えば明星セメントだとか、糸魚川市外から外貨を稼ぐ企業に大きくなっていただいて、そのためにはやはり水力なり自然エネルギーをつくることに重視するよなということ、市としてもぜひとも応援していただきたい。そういう面では、市長を初め本当にありがたいと思ひます。

また、小滝のほうも発電所というふうに言ってます。やはり糸魚川を、これから30年先、50年先というふうに考えたときには、この地は水力、そして山林があるバイオマスでエネルギーをとることによって何とか生き延びていけるのではないかというふうに考えます。ぜひとも頑張っ

て応援する体制を今までどおりよろしくお願ひしたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

次に、滝川正義議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

滝川議員。〔6番 滝川正義君登壇〕

○6番（滝川正義君）

創生クラブの滝川でございます。

5点にわたって一般質問させていただきます。

まず1点目でございます。「明治150年」に向けた取り組みについてお伺いいたします。

来年は明治維新、すなわち1868年から150年に当たる節目の年です。政府は、この明治150年を機に、明治以降の歩みを次世代に残す。明治の精神に学び、さらに飛躍する基礎とすると、こういった基本的な考えをもとに明治150年に関する各種施策に積極的に取り組んでおり、また、全国の自治体においても取り組むところが出ているところです。

また、ことしはこの明治元年の1年前の大政奉還から150年に当たる年です。京都市を初め幕末維新に京都で活躍した先人たちと縁を持つ全国の都市、22都市が共同で幕末維新をテーマにした文化・観光の振興などを目的に共同プロジェクトを繰り広げております。

例えば前島 密という人がおられます。近代郵便制度の父と言われる、この前島 密は、明治時代に郵便事業以外にも東京専門学校創立、電気通信事業の推進などさまざまな成果を上げましたが、当時の大久保利通らの大阪遷都に対し、江戸遷都を建白したことで有名です。この前島 密、幼名を上野房五郎と言いますが、今の上越市の生まれです。彼が少年期、多感な少年期を糸魚川藩の藩医、藩の医者ですが、糸魚川藩の藩医、相沢文仲の世話になりながら地元の銀林玄類や竹島穀山などの薫陶を得ており、糸魚川とも縁の深い人物です。

例えば、この前島 密をキーワードとしてほかの自治体などと連携した事業が考えられるのではないのでしょうか。歴史認識につきましては、人それぞれの考えがあるのは当然のことでございます。しかし、一つの節目を機会にさまざまな角度から歴史を見詰め直すと同時に、観光・交流の拡大によいきっかけになるものと考えてます。

そこで、お尋ねしますが、当市において明治150年に関連した事業を実施するお考えはないのでしょうか。

次に、2点目の質問に移ります。

活字離れが言われて久しいものがありますが、現在、教育界において子供の読書週間が注目されています。例えば今年度の全国学力学習状況調査、いわゆる全国学力テストの結果が公表されまし